

一般社団法人コミュニティシネマセンター

平成27年度(2015年度) 事業計画

1. 受託事業

[1] 地域の映像文化を担う人材を育成する

映像アートマネージャー育成のためのワークショップシリーズ 2015

(文化庁 平成27年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業)

平成13年(2001)の文化芸術振興基本法の公布後、平成15年(2003)に映画振興に関する懇談会による提言「これからの日本映画の振興について」が発表されて10年、映画振興のための様々な施策が実現し、日本映画の活況に大きな貢献をしている。H26年度のプログラムでは、この提言の理念がどのような形で施策として具体化されてきたかを、特に「上映」分野における施策を中心に考え、提言後、10年を経過した現在の状況を検証し、将来的にどのような施策が必要なのかをワークショップやシンポジウムを通して話し合ってきた。H27年度の事業では、現状を把握するための調査やヒヤリングをさらに進め、ワークショップ、シンポジウムを重ねることで、映画の上映活動を活性化し、振興するための具体的な施策のモデルプランを策定する。

さらに、H26年度の事業を実施する中で感じられた大きな課題として、映画上映の現状に関する情報の不足がある。当該分野の現状の把握は、振興策を策定する大前提となる。今回の事業では最低限の現状把握のための調査も合わせて行う必要がある。

映画のデジタル化が進む中で浮上している、フィルム文化の継承、フィルムでの上映環境の確保という課題の解消を目指すFシネマ・プロジェクトのリサーチ、ワークショップも合わせて実施する。

また、東日本大震災の被災地において、新しい街づくりの中で地域の映画映像文化を担う人材を育成するためのワークショップ、“若年層の観客開拓”等をテーマとする映画教育プログラムも継続的に実施し、地域の映画映像文化の活性化を促す。

(1) 映画上映振興プラン立案のためのリサーチとワークショップ

実施期間:

2015年5月～8月末 前期/ 2015年10月～2016年3月末 後期

内容・方法:

- ・講師・リサーチ協力者とコミュニティシネマセンターでワーキンググループを構成し、定期的にミーティングをもちながら、国内の映画上映活動の状況を調査・整理するとともに、諸外国の上映振興制度なども参考にし、振興策案を作成する。
- ・公開ワークショップで上記の提案資料を提起し、ディスカッションを行う。(東京・地方[9月のシンポジウムに合わせて開催]各1回)
- ・9月に新潟市でシンポジウムを開催する。
- ・10月以降、調査・ミーティングを重ね、さらに振興策を精査するとともに実現への道筋を探る。
- ・3月上旬～中旬にブラッシュアップした上映振興策を盛り込んだ報告書を作成する。

(2) フィルムの上映環境を確保する「Fシネマ・プロジェクト」ワークショップ

2015年5月～8月末 前期/ 2015年10月～2016年3月末 後期

内容・方法: 上映形態の多様性を確保し、フィルムでの上映環境を保持しつづけるための「Fシネマ・プロジェクト」。現状をリサーチし、具体的な事業プランを、関係者を集めたワークショップ(9月にシンポジウムに合わせて開催予定)で提示しディスカッションする。情報共有のためのウェブサイトを構築する。[1]の報告書にレポートを掲載する。

(3) シンポジウム(全国コミュニティシネマ会議 2015)

開催期間:2015年9月4日(金)～5日(土)

会場:新潟市

上記(1)(2)の成果を報告し、地域の上映者、映画関係者、専門家を交えてディスカッションをする。

内容については別添の企画書参照。

(4) 映像教育プログラム～若年層の観客開拓プログラムの共同制作

実施期間:秋～春に実施予定 会場:地方の3会場程度で実施予定

内容:地域の映画館や上映会主催者とともに、子ども～若年層を対象とする上映会やワークショップの企画制作実習を行う。今年度は、実施を希望する会場を募集して実施する。

(5) アートマネジメントワークショップ イン 東北

実施期間:2015年8月～2016年3月頃(企画立案～実施)

実施地域(予定):岩手(宮古、釜石)、宮城(石巻)など 3会場程度で実施

内容:東日本大震災で被災した三陸沿岸部等、街なかから映画館が無くなった地域で、企画書予算書の作成～広報～イベントの実施といった一連の作業を、ワークショップとして行う。このワークショップを通して、中小都市でも持続可能な新しい文化の拠点づくりを考える。ワークショップは各開催地で2～3日間程度を予定し、最終期には上映会(一般公開)を行う。今回は、コミュニティ・デザイン、コミュニティ・ビジネスの分野で活躍する人を講師に招き、映画の上映をコミュニティの活性化と結びつけることを考える内容としたい。

(6) 全国コミュニティシネマ会議 2015 の開催

開催時期:2015年9月4日(金)～5日(土)

開催会場:新潟市

内容については別添の企画書参照。

2. 自主事業

[1] シネマエール東北 東北に映画を届けよう！プロジェクト

東日本大震災とそれに続く福島第一原発事故により、甚大な被害を受けた岩手、宮城、福島の三県を中心とする地域で上映会を開催し、文化による支援を行うとともに、新しい映像文化事業のあり方を提示することを目指す。5年間をひとつの区切りとし、次年度以降はより限定的なプロジェクトへ移行する予定。

上記「アートマネージメントワークショップ イン 東北」と連動して、地域で映画上映活動を行う人材の育成、人口が減少していく中小都市でも持続可能な新しい映像文化の拠点づくりを目指す。また、現在も残る仮設住宅の集会所や児童館、コミュニティセンターを会場として行う小規模な上映会も継続する。

共同開催、現地事務局・実施団体：

岩手県・みやこシネマリーン

宮城県・NPO法人20世紀アーカイブ仙台/ISHINOMAKI2.0

福島県・山形国際ドキュメンタリー映画祭/山形県映画センター/フォーラムネットワーク

共催：東日本映画上映協議会、株式会社ポケモン（予定）

作品提供：角川書店/松竹株式会社/東宝株式会社/東映株式会社 ほか

後援：日本アカデミー賞協会

協力：岡田劇場/せんだいメディアテーク/朝日座を楽しむ会

岩手県興行生活衛生同業組合/生活衛生同業組合宮城県映画協会/福島県興行生活衛生同業組合

支援：芸術文化振興基金/中央共同募金会（申請中）

[2] シネマ・シンジケート プロジェクト

(1) 会員相互割引サービス/デジタルシネマの情報共有など

- ・コミュニティシネマセンター加盟館をつなぐサービスとして各加盟館の会員証を提示することにより相互に鑑賞料金の割引を実施（割引金額は各館が任意に設定）。

- ・SNS等を活用してデジタルシネマに関するトラブルについて情報共有を進める。

(2) 共同で取り組む作品

- ・作品を検討中

[3] シネマテーク・プロジェクト /F シネマ・プロジェクト

(1) 「蘇ったフィルムたち～東京国立近代美術館フィルムセンター復元作品特集」

100年をこえる映画の歴史の中で、デジタル化された作品はごくわずかにすぎず、大半の映画はフィルムでしか上映することはできない。「F シネマ・プロジェクト」ではフィルムでの上映環境を確保することを考える。このプロジェクトの一環として、東京国立近代美術館フィルムセンターと共同で、国立のフィルム・アーカイブであるフィルムセンターが復元し蘇らせた日本映画の名作の数々を、35ミリプリントで巡回する。

2014年度までの巡回作品に新たな作品を追加し、ラインナップを充実するとともに、上映会場の拡大をはかる。

2015年度巡回予定会場

2015年4月 高崎映画祭

2015年6月 札幌映画サークル

2015年7月 名古屋シネマテーク ほか

(2) MoMA ニューヨーク近代美術館映画コレクション

「MoMA ニューヨーク近代美術館映画コレクション」では、1935年の創設から今日まで世界のフィルム・アーカイブ運動、シネマテーク運動をリードし続けるニューヨーク近代美術館（MoMA）映画部門

が所蔵するコレクションを、厳選されたビンテージ・プリントで紹介する。

2015年度巡回予定会場

2015年4月 川崎市市民ミュージアム

2015年6月 京都国立近代美術館

2015年秋 川崎市アートセンター ほか

巡回作品

ビッグ・トレイル ラオール・ウォルシュ /**暗黒の恐怖** エリア・カザン /**バンド・ワゴン** ヴィンセント・ミネリ

イタリアン・アメリカン マーティン・スコセッシ **スウィート・スウィートバック** メルヴィン・ヴァン・ピーブルズ

悲しみよこんにちは オットー・プレミンジャー

ウォーホルプログラム ヴェルヴェット・アンダーグラウンド&ニコ/ スクリーンテスト

ディズニー、D.W.グリフィス等の短篇

(3) 「ハント・ザ・ワールド～ハーバード大学感覚民族誌ラボ傑作選」 配給協力

(4) 2016年度企画のための準備

[4] 映画の巡回/特集上映会の開催

(1) マノエル・ド・オリヴェイラ監督特集

今年4月に亡くなった巨匠マノエル・ド・オリヴェイラ監督の特集。現在国内にあるすべての作品（約20本）を一挙上映する。『アンジェリカ』（配給：クレスト・インターナショナル）の公開（2015年12月予定）と連動して開催する。未公開作品の上映、巡回も検討する。

共催：ユーロスペース 後援・協力（予定）：ポルトガル大使館、日本ポルトガル協会、川崎市市民ミュージアム、アテネ・フランセ文化センターほか

(2) コミュニティシネマ賞 2015 の授賞

今年10月の「山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015」でコミュニティシネマ賞を授賞する予定。

(3) コミュニティシネマセンター製作『ASAHIZA～人間は、どこへいく』の上映、巡回

2013年秋に完成した福島県南相馬市の映画館「朝日座」についてのドキュメンタリー映画『ASAHIZA～人間は、どこへいく』を公開、巡回する。

『ASAHIZA 人間は、どこへ行く』 2013年/ 74分 /カラー/ブルーレイ 監督 藤井光

2015年度巡回会場

ジャパン・ソサエティ(ニューヨーク)、下高井戸シネマ(優れたドキュメンタリー映画を見る会)、鹿児島大学、アンスティチュ・フランセ、ヒューマン・ドキュメンタリー映画祭阿部野、益子町・土祭等

(4) 所蔵フィルムの上映、巡回、配給会社作品の上映協力など。

コミュニティシネマセンターが保有するフレデリック・ワイズマン監督作品、ヤスミン・アフマド監督作品、その他、当センターが保有する作品、配給委託作品の貸出を行う。

[5] その他の事業

(1) 地域のコミュニティシネマに対する支援・アドバイスなど

(2) ウェブサイトの運営、会員制度の充実など

今年度は、ウェブサイトのリニューアルを行う。

また、会員制度のさらなる充実を期し、団体会員の増加をはかる。特に賛助会員の獲得を目指し、広報用の資料を作成する。